

私は大きく4点について質問します。初めにひきこもり支援について質問します。

ひきこもり支援は分野横断的に対応する仕組みが不可欠です。青少年を取り巻く環境は多様化・複雑化してきており、子どもや家庭の孤立状況も深刻です。こうした社会状況の変化に即して、時には個別的対応が、また別の機会には総合的対応が求められています。

北区ではひきこもりや生きづらさを感じる本人とそのご家族が、想いを分かち合い、情報を交換し合える場所として、みんなの居場所を月2回開催しておりますが、この取組みの成果及び現状の課題についてお聞かせください。

現在、参加者は区内在住の方に限定していますが、近隣区在住、在勤の方も利用できるように参加対象を拡大し、より多くの方と交流をする機会が持てるようにすべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

あわせて居場所の一角に設けている相談コーナーについても、これまでの取組みの成果及び課題についてお聞かせください。その上で、今後は適切な支援機関につなぐだけではなく、医師、精神保健福祉士、カウンセラー等専門職の相談員の拡充を行い、区として支援強化を図っていくべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

本年4月よりフリーダイヤルを使用した電話相談を毎月1回実施していますが、毎月の利用者数を教えてください。その上で更なる周知を徹底する必要があると考えますが区の見解をお聞かせください。周知が進んだのちは相談回数に関しても、月1回から2回、3回と増やして頂くよう要望しますがいかがでしょうか。

本年7月よりスタートしたひきこもりサポーター養成講座について、参加希望者数と講座内容をお示しください。今後、区として講座を修了したひきこもりサポーターの方をどのように活かしていくのか区の見解をお聞かせください。

墨田区では、令和5年4月から「ひきこもりに関する専用相談窓口（すみ家）」を開設し、ひきこもりで悩んでいる方やその家族からの相談を受け止め、ご本人が望む解決に向けて、伴走支援を行っています。相談支援事業の実施体制としては、ひきこもり支援実績のある公認心理師が必ず全ての相談に関わることになっており、電話、メール、オンライン、対面相談、訪問相談など状況や希望に沿って多面的な対応を行っています。以前から要望しておりますが、北区としても当事者目線を大事に寄り添いのできる区の資源を生かしたチームによるワンストップ相談窓口を開設すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

それとともに、就労に向けた意欲は持ちながらも、悩みや不安を持つ15歳から49歳までの方を対象に、サポートを行う若者サポートステーションが板橋区をはじめ全国に179か所設置されております。そこで北区にも設置すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

その上で、居場所や相談に来ることが出来ない方への支援も考えていかなければなりません。先月会派で視察に伺った佐賀県のNPO法人スチューデント・サポート・フェ

イスは、主に不登校、ひきこもり、非行等の問題を抱える子どもたちやニート、フリーター等の無業若年層に対し、総合的な自立支援を行うことを目的として 2003 年に設立されました。アウトリーチと呼ばれる訪問型支援を駆使して、直接的に当事者本人・家庭に密着する支援・指導を実施しています。家庭教師型の支援者は、不登校のこどもからはお兄さんお姉さんの存在として受け入れられやすく、ひきこもり等深刻な状態にある若者をケアする際は、臨床心理士等から選抜された支援コーディネーターが行動を共にしながら専門的なサポートができる体制をとっています。訪問観察、訪問支援の活動が蓄積された結果、膨大な訪問支援実績やノウハウが得られ、具体的には 9 割以上の家庭から学校復帰や脱ひきこもり、就労等客観的な改善報告がなされるという抜群の成果を出しています。

谷口代表理事に北区としてまず取り組むべきことを尋ねたところ大学との連携から始めることと教えていただきましたので、まずは区内の大学と連携し支える側の人材確保をすることが必要であると考えますが区の見解をお聞かせください。

また、本人や家族が相談にたどり着けない方に対して区としてどのようにサポートしていくのか見解をお聞かせください。

北区としても声なき SOS を受け止めるため専門職が連携し、孤立する本人や家族に確実に支援が届く仕組みの構築を求めますが区の見解をお聞かせください。

次に公衆浴場を活用した健康増進について質問します。

全国公衆浴場業生活衛生同業組合連合会によると、全国の銭湯の数は 1968 年の 1 万 7999 軒をピークに減少を続け、令和 7 年 4 月 1 日には 1562 軒となっています。主な原因は建物の老朽化で、売り上げ不足もあって、建て替えることができないまま廃業するケースが多いと言われています。そのような中、多くの自治体で公衆浴場は地域の健康づくりの拠点としての役割を求められています。

北区では高齢者ヘルシー入浴券について、デジタル化に向けた検討を行っていると伺っています。豊島区では区内に住民登録のある 65 歳以上のかたの健康増進に活用して頂くため、区が指定する公衆浴場に 100 円で入浴できる「としま・おたっしゃカード」を発行しています。このカードは、1 年間で利用可能なポイントが付与されている IC カードで、公衆浴場にカードを提示することで、4 月から翌年 3 月末までの 1 年間で最大 40 回まで 100 円で利用できます。カードの更新については毎年 4 月以降の公衆浴場利用時に自動更新される仕組みになっています。このカードは、本人確認と使用回数までチェックできる高性能なカードとなっています。

北区としてもデジタル化実現の折には、豊島区を参考に自動更新できるようにするとともにマイナンバーカードを活用できる仕組みの構築を要望しますがいかがでしょうか。さらに利用回数も現在の 24 回から 36 回に増やし、近隣区との相互利用を促進し利便性向上に努めるべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

また、荒川区では、住み慣れた地域で自立した生活が継続できるように支援するため、一人で入浴することが不安な高齢者が安心して入浴することができるよう、公衆浴場に「見守り支援員」を派遣し、入浴前には、介護予防等に関する講話や情報提供を行っています。対象者は、区内に居住する概ね 65 歳以上で、一人での入浴動作は可能だが不安がある要支援 2 までの方となっています。「見守り支援員」の料金は無料で、定員は各会場概ね男女各 5 名までとなっています。

北区としても荒川区のように安心して入浴できるような取組みができないでしょうか。

さらに練馬区では、公衆浴場をコミュニティの場として活用する、ひと汗かいてひとつ風呂「フロ・マエ・フィットネス」事業を行っています。公衆浴場の営業開始前に脱衣所などのスペースを使って、筋力向上トレーニングやレクリエーションを行っています。対象は区内在住の 55 歳以上の方で参加費は 1 回入浴料込みで 200 円となっています。

公衆浴場を拠点として、行政・医療機関・地域が一体となって健康づくりの施策を行うことで、ひきこもりがちな高齢者が外に出るようになり、入浴自体の健康・リフレッシュ効果もあることから地域住民の健康状態も向上していきます。**北区としても公衆浴場を健康づくりの場としてさらに活用していくことを提案しますが、区の見解をお聞かせください。**

次に（仮称）芥川龍之介記念館開館に向けて質問します。

北区では本年 8 月（仮称）芥川龍之介記念館の着工式を行い、没後 100 年となる令和 9 年の開館を目指し機運醸成を図る様々な企画を行っております。

7 月 24 日には滝野川会館で河童忌 2025 特別鼎談「芥川龍之介 室生犀星 萩原朔太郎のいた田端」が開催されましたが、今まで取り組んだイベントの反響等について区の見解を総括的にお聞かせください。

その上で来年以降は、地域を巻き込んだ機運醸成イベントを行うべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

また、今年の夏には、田端文士村記念館・文京区森鷗外記念館・台東区一葉記念館、池波正太郎記念文庫・荒川区吉村昭記念文学館の 5 つの文学館をスタンプラリーで周遊するイベントを開催、私も 5 館全てまわりました。このイベントの反響等についてお聞かせください。

今回は荒川区主導での開催でしたが、今後は北区が先頭にたって継続的に周辺文学館との周遊イベントを行うよう要望しますが、いかがでしょうか。

例えば荒川区の吉村昭記念文学館は平成 29 年に福井県ふるさと文学館と、「おしどり文学館協定」を締結しました。この協定は、吉村昭と福井県出身の作家、津村節子氏のおしどり夫婦になぞらえ締結したものです。

(仮称) 芥川龍之介記念館としても今回の4文学館やすでに交流している漱石山房記念館、太宰治展示室などとの交流を深めていくとともに、芥川ゆかりの地方の文学館例えば金沢市の室生犀星記念館などとも交流を進めていくべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

また人気のある文学館等はどこもミュージアムショップが充実しています。(仮称)芥川龍之介記念館も象徴となるようなグッズ作成が必要であると考えますが現状の進捗状況をお聞かせください。

総務省の調べによると、SNSは2023年の時点で、国内で約1億580万人が利用しているとされ、私たちの生活に欠かせない生活基盤となっています。またSNSと聞くと若者のイメージが強いですが、近年では60代の9割、70代の7割、80代前半の約半数が使用しているとのデータもあります。もはやSNSは、あらゆる世代の日常に入り込んでいるといえます。

奈良文化財研究所での調査によると本年8月下旬時点でSNSのアカウントを持つ378の日本の国立・公立博物館のうち岩手県遠野市立博物館のフォロワー数は全国4位の5万8571人で自治体設立では最多となっています。同博物館はコロナ禍の2020年7月にXを開始。入場者数が落ち込む中、来館できない人に発信するため、学芸員による解説のほか、全国にファンの多い「遠野物語」を連想させる風景を撮影し、1日1回は投稿を続けたところ、21年1月には1千人だったフォロワー数が22年3月には1万人を突破しました。23年7月から9月に開催された特別展「遠野物語と呪術」の告知もフォロワー数を押し上げたと考えられます。呪術のアニメが人気だったこともあり、告知開始から会期終了までの5か月で1万7千人増加しました。24年春からは投稿者を4人に増やして発信体制を強化。反応が良かった投稿を分析し、曜日や時間を選んで人気だった投稿と同じジャンルの投稿を増やしたところ、SNS効果でアカウント開設前年の19年に1万7600人だった年間入場者数が23年、24年は2万人を超えるまで増加しました。「遠野物語と呪術」の来館者アンケートでは、65.5%が企画展を知ったきっかけを「SNS」と回答しています。

現在田端文士村記念館のXのフォロワー数は約4200です。SNS・デジタル時代は小規模館でも大規模館と同等の発信力を持つことが出来ると考えます。そこでSNS発信を強化していく体制の構築が必要であると考えますが区の見解をお聞かせください。

(仮称) 芥川龍之介記念館の成功の鍵を握るのは人材です。学芸員の待遇を改善し人材確保を図るべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

「宮本武蔵」「三国志」などの名作を手掛けた国民的作家、吉川英治の資料を展示する吉川英治記念館は2020年9月7日に青梅市の施設として再オープンしました。青梅市は観光拠点として、高齢者に多いファン向けの展示に限らず、マンガとのコラボや写真を多く展示するなどして吉川英治を知らない人や若い世代の来館者を増やしていくとしています。

（仮称）芥川龍之介記念館も芥川ファンだけでなく、芥川龍之介を知らない若い世代の来館も目指しています。田端文士村記念館でも 2020 年に人気ゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップした企画を開催しましたが、今後もアニメやゲームなどを取り入れた展示企画を行い、多くの方が訪れる記念館となるよう要望しますがいかがでしょうか。

さらに、芥川龍之介のファンは世界中におりますので、外国人も多く来館されると想定されます。そこで Wi-Fi 環境を整備し、翻訳アプリ等を使えるようにするなど外国人も展示を楽しめるようにするための工夫が必要と考えますが区の見解をお聞かせください。

最後に田端・西ヶ原地域の諸課題について質問します。

はじめに渋沢通りの周知・活用についてです。北区では昨年 JR 王子駅中央口から旧古河庭園までの道路の愛称を渋沢通りと決定し、王子駅中央改札口と国立印刷局東京工場の入口に看板を設置したほか、周辺施設等へのポスター掲示や北区公式 SNS を活用し周知を図っております。11 月 3 日に行われたイベントでは渋沢通りを馬車が走り多くの方の注目を集めました。渋沢通りはパリのシャンゼリゼ通りと共通点があるとの節もあります。渋沢通りには七社神社、一里塚、音無橋、旧古河庭園など渋沢翁ゆかりの名所が多くありますので、ストーリー性を持たせることが必要ではないかと考えますが区の見解をお聞かせください。

周知の方法として、例えば渋沢通り沿いの K バスの停留所の名称に入れ込んだり、滝野川会館前の歩道橋に大きく「渋沢通り」と表示するなどを提案しますがいかがでしょうか。

次に滝野川東区民センターについてです。区民センターの中には、児童館や老人いこいの家などの施設が入っておりますが、空調やボイラーが故障するなど設備の老朽化が進んでおります。そこで早期に改築を行うよう要望しますが区の見解をお聞かせください。

最後に都市計画道路についてです。補助 92 号線と都道白山小台線の連絡部に関して現状細い道を左折して車両が通行するようになっていますが、この道は通学路でもあり危険であると感じています。そこで東京都と早期に協議を進め、直進して通行できるよう交差点などを整備することを要望しますが現在の状況と合わせて区の見解をお聞かせください。

また、補助 181 号線について、今年度より下水道工事に着手すると伺っておりますが、地域の防災力向上のために早期に開通するよう要望しますが、こちらも現在の状況と合わせて区の見解をお聞かせください。

以上で質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。